

中国語を母語とする中級日本語学習者のパーソナルコンピューターを用いた 作文過程で見られる発音と表記方法の変化

石毛順子

要旨

中国語母語話者は作文を手書きで書く場合は想起した漢語や漢字の字形が日本語と同じであれば、発音やひらがなでの表記がわからなくても、多くの場合漢語や漢字をそのまま書けばよいが、パーソナルコンピューター（PC）で入力する際には発音を正しく習得しておくこと、正しく習得した発音を表記と一致させて入力することが必要である。本研究は、中国語を母語とする中級日本語学習者が PC を用いた作文過程を分析し、発音と表記の誤りが表出した場合、学習者がどのように対応し、発音と表記がどのように変化していくのか明らかにすることを目的とした。その結果、発音・表記の誤りが表出した場合、表記を変えてみたり辞書等を用いて読み方を調べたりすることでその後の入力が正しく改善されること、または改善できずに別の語彙を用いたりすることが見られた。

キーワード

作文過程、パーソナルコンピューター、中国語を母語とする日本語学習者、漢語の発音、漢語の表記

1. 目的

パーソナルコンピューター（以下 PC）が普及し、作文の課題も手書きではなく PC で書かれた物を見ることが多くなった。PC で作文を書く場合、削除や変更がしやすいという面もあるが、漢字や漢語は読みを正しく入力しないと変換できないという面もある。中国語母語話者においては日本語の漢字の形と意味は細部では注意が必要なものの、比較的容易に習得できる（茅本 2000）ため、手書きの場合は想起した漢語や漢字の字形が日本語と同じであれば、発音・読み（ひらがなでの表記）を正しく覚えていなくても漢字で書くことができる。ただし、PC の場合は発音・表記を覚えていなければ入力して変換することができない。中国語母語話者の漢字の読みの習得に関しては、以下のような困難があげられている。漢字の音読みは中国語の発音に似ているものがあるが（汪 2009）、漢字の中国語音と日本語の音読みが似ているために混同し、中国語発音の影響が出る（盧・山下・林・山崎 2004）。また、訓読みの習得は音読みに比べて困難である（茅本 2000）。同時に、音読み・訓読みに限らず、中国語母語話者にとって、長音・促音・濁音を正しく発音したり、表記したりすることは困難であり、日本語のレベルが高くなっても習得できていない学習者は多い。盧・山下・富永・林・山崎（2005）においては、中国語母語話者にとって濁音・長音・促音・拗音のキーボード入力は難しいと述べられている。したがって、PC で作文を書くことは、発音と表記の誤りを学習者自身で再度知る機会となる、つまり発音と表記を自己モニタリングできる機会となると思われる。ただし、盧ら（2005）では、具体的にどのように学習者がキーボード入力での困難に対応しているのかは記述され

ていない。そこで本研究では、日本語中級の中国語母語話者が PC で作文を書く過程で、特に長音・促音・撥音の発音または表記の誤りのために漢語や漢字が変換できなかった場合どのように対応しているのか、その対応および発音・表記が1回の作文過程の中でどのように変化するか明らかにすることを目的とする。なお、本研究では長音・促音・撥音が訓読みで現れる場合も音読みで現れる場合も区別せずに分析を行う。

2. 方法

2.1 参加者、調査期間、実施場所

参加者は日本語中級⁽¹⁾の中国語母語話者5名であった。全員台湾出身の大学生であった。2012年12月～2013年6月、調査者の研究室で調査は行われた。

2.2 手続き

辞書や教科書など、PCで作文を書くときに参加者が必要とするものの持ち込みや使用は全て許可していた。PCは調査者のPCを使用した。

調査当日、PCでの作文過程で考えていることや作文過程での行動を知るための調査であるということを説明し、考えていることをできるだけ口に出すよう依頼した。考えていることをできるだけ口に出すよう依頼したのは、本研究で参加者の作文過程での思考を記述する方法として主に用いたのが発話思考法だからである。発話思考法とは、自分の思考の道具としての心の中の言葉である内言（ヴィゴツキー2001）を口に出して音声化する方法である。参加者が発話思考法を行いやすくするための条件は、課題に集中しやすい環境づくりであり、具体的には調査者の自己紹介や雑談がある（高橋1993）。本研究の参加者のうち3名は調査前に調査者との面識がほとんどなかったことから、調査目的の説明後、自己紹介や雑談をした。

PCでの作文過程で普段どのようなツールを用いているのか答えてもらい、その時点でそれらのツールが正しく作動するか確認してもらった。例えば、インターネットの辞書を使用しているとあれば、その辞書に接続できるかどうか、また google アプリケーションを利用しているとあれば、インストールして正しく動くかどうか確認してもらった。その中には Rikaikun という Google Chrome のアプリも含まれていた。Rikaikun は web にある漢字や漢語にカーソルを合わせると吹き出しに英語で意味、日本語で読みを示すものである。つまり、読みを知りたい漢語を Google の検索窓に入力し、カーソルを合わせると日本語の読み方を知ることができる。Rikaikun では中国語の入力方法によって漢語を繁体字で入力しても、漢語の日本語の読み仮名が示される。調査対象は日本語の作文過程だが、日本語の作文過程でも内言は日本語とは限らないため、母語での発話も許可した。

調査に先立って、約1時間、考えていることを口に出す発話思考法の練習を行った。その順番は繰り上がりの必要な計算、母語での作文、日本語での作文の順であった。考えていることを口に出すという行動を普段作文では行っていないと思われたため、繰り上がりの必要な計算から練習してもらった。練習の際、先ほど使用すると答えた以外のものを作文執筆の際に使用したら、答えた紙に記入してもらい動作確認を行った。参加者に、調査中に参加者が黙ってしまった時は「話してください」と書いたカードで指示すると伝えた。

作文のテーマを発話思考法の練習後、調査開始直前に提示した。参加者は7つの作文のテーマの中から1つのテーマを選んだ。

また、PCで作文を書くときに紙を用いるか尋ね、用いたい場合は練習の際は練習の指示が書かれた用紙の裏、調査の際はテーマが書かれた用紙の余白を用いるよう指示をしていた。作文過程はビデオカメラで撮影し、同時にICレコーダーで録音した。5人の作文の所要時間、作文の字数、選択したテーマは表1の通りであった。

表1 参加者の作文所要時間、作文の字数、選択したテーマ

	所要時間	字数	選択したテーマ
参加者 A	約 19 分	306 字	田舎の生活と都会の生活
参加者 B	約 22 分	560 字	台湾の家と日本の家
参加者 C	約 45 分	322 字	男と女
参加者 D	約 57 分	574 字	高校生活と大学生活
参加者 E	約 67 分	847 字	田舎の生活と都会の生活

調査後、作文過程の発話プロトコルを作成し⁽²⁾、1回の作文過程での発音・表記の変化を分析した。

3. 結果と考察

本研究では、参加者 A を除く 4 名に作文過程において漢語や漢字を使う語彙で発音・表記の誤りが表出し、それを改善したりまたは改善できずに別の語彙を用いたりすることが見られた。よって、参加者 B、C、D、E のケースについてスクリプトを示しながら紹介する。【】内は直前に発話された中国語の日本語訳、()内は参加者の動作である。

3.1 参加者 B のケース

参加者 B は長音・促音・撥音の発音・表記ミスは少なく、改善が見られたのは下記の「夜市」「女性」の2例のみであった。

・執筆時間 7:36~8:08 のスクリプト

よういちに、「行く」まで入力して、変換し、「陽一に行く」となる)ん? («陽一に行く」を消す)よういち(変換しても陽一、洋一などしか変換候補がない。「よういち」を消す)夜市、に、行く、と、うーん、(とを消す)行くこと、(読み返す)夜市に行くこと

・執筆時間 10:26~10:37 のスクリプト

じょうせい(じょうせいと入力し、情勢と変換されたので消す)じょせい(「じょうせい」と入力したので、情勢、醸成と変換される。)、ん?(じょうせいを消す)じょ、(じょうまで入力して「う」を消す)女性

「夜市」のケースでは「よいち」を「よういち」と発音・表記していたが、2回「よういち」と入力して変換されないことに気付き、3回目で正しく発音し、正しい表記で入力することができた。しかし、「女性」のケースでは最初は「じょうせい」と発音していたのを、正しく「じょせい」と発音できるようになったにも関わらず、表記を「じょうせい」「じょう」とすることを繰り返し、4回目で正しく「じょせい」と正しい表記で入力することができた。

3.2 参加者 C のケース

参加者 C の長音・促音・撥音の発音・表記ミスで改善が見られたのは「重要」「女性」「興味」「大切」「世界」「平等」の6例であった。その中から、「平等」を取り上げる。

・執筆時間 29:20~30:49 のスクリプト

(中日/日中辞典 <http://dict.hjenglish.com> を開き、検索窓に「平等」と中国語入力方法で入力) 平等【平等】、(辞書にも「びょうどう」とあるが、Rikaikun で読み方を確認) 平等、平等、平等、権利、(サイトを閉じ、再び書き始める) な、と、男、権利は、い、の、社会、本、当、にじょうえい、(サイトを閉じ辞書で読みを確認して閉じる) じょうと、じょうどう、じょうど、う、(サイトを閉じ、Rikaikun で読みを確認) じょう、あ、びょうどう。びょうどう。(サイトを閉じる) びよ、びよ、びよ、びよ、(再び書き始める) 平等

・執筆時間 45:53~46:07 のスクリプト

表面、の、(30:49 で書いた 3 行前の「平等」をカーソルでなぞる) びょうどう、びよ、びよ、びよ、びよ、びよう、びようと(「びようと」と入力する) びよ、う、ど、う、(変換前に「びょうどう」と直してから変換)、は

参加者 C は「びょうどう」という読みが分からず 29:20 から調べたが、1回見ただけでは記憶できず3回読み方を確認して「じょうえい→じょうどう→びょうどう」と正しい発音と表記にたどり着いた。2回目(45:53~)に書くときには、1回目に間違えた「びよ」という音を繰り返し、辞書等を使わずに「平等」と書くことができた。

3.3 参加者 D のケース

参加者 D の長音・促音・撥音の発音・表記ミスで改善が見られたのは「自然」「一方」「閉店」「五分」「空気」「普通」の6例であった。その中から、「閉店」を取り上げる。

・執筆時間 16:26~17:35 のスクリプト

店家很早關【店は早く閉まる】やはり不便です。そして、店、店、も、早くて、くて、へんでん、へんでん(閉店に変換不可)、閉店、ん、關門【閉まる】閉店【閉店】へいでん(閉店に変換不可)、うん、へ、い、てん(正しい表記で入力できたが「へ移転」と変換される)、早くて、へい、閉店【閉店】、(中日/日中辞典 <http://www.jwczgh.cn/> の検索窓に「閉店」と中国語入力方法で入力し、Rikaikun で

読み方を確認)へいてん、對阿【合ってるよ】、(サイトを閉じ、再び書き始める)
へい、てん

・執筆時間 54:43 のスクリプト

(一旦書き終えた作文を最初から読んでいる) 店も早くて閉店して、遊べることは少ないです。

参加者 D は「閉店」の読みを「へんでん」と発音・入力していたが自分の力で「へいてん」までたどり着くことができた。しかし正しく変換されなかったために Rikaikun を用いたが、自分の読み方が正しかったことを確認し、54:43 で書きあがった作文を読むときには「へいてん」と読むことができた。

3.4 参加者 E のケース

参加者 E の長音・促音・撥音の発音・表記ミスで改善が見られたのは「美術」「毎日」「学校」「勉強」「書道」「皆さん」「一番」「授業」「大学」「入学」「試験」「難しい」「私」「生活」「他(ほか)」「友達」「大部分」「先輩」「意見」「留学」の 20 例であった。20 例のように改善されたものもあるが、改善することができず違う単語で言い換えるという例もあった。改善されたものの例として「美術」を取り上げ、改善することができず別の単語を用いた例として「専門」を取り上げる。

・執筆時間 3:00~5:00 のスクリプト

私、が、高校、で、美術を、美術の、私の、うーん、私が 高中的時候【高校の時】私のせ、(『せ』と入力したので『せ』を消す)、せい、(「し」と入力して消す)せい(「せ」と入力する)、もん、(「も n」と入力した後、「も n」を消し、「いもん」を入力する。変換すると「野正門」となったので「野正門」を消す。のを入力する)せえ(「せ」と入力する)、もん。(「せもん」を変換して「施文」となったため消す。グーグル翻訳を開いて、major と入力する。「主要な」が最初に表示され、専攻科目も名詞の候補として提示されたため、「主要な」をクリックする。「メジャー」、「専攻」、「大規模な」、「重要な」が他の候補として提示されるが「専門」は提示されない。専攻を選び、Senko(o の上にバー)の読みを確認する)専攻、(グーグル翻訳を閉じる)せん(「せんこう」と入力し、変換候補から「専攻」を選ぶ)、専攻、は、びじゅうつ、(「鼻汁津」と変換されたため消す)美術(正しく発音できているが「びゆつ」と入力し「美湯津」と変換されたために「湯津」を消す)び、じゅ、つ、(美を残したまま、「つ」のみ入力したため「津」と変換され、「美津」を消す)び、び、じゅ、つ、(正しく変換される)(書いた文を読み返す)高校時、私の専門(正しく発音できているが、作文に書かれているのは「専攻」)は美術(読み返し終了)、です。

参加者 E は発音と表記に揺れがある参加者であった。「美術」も最初に「びじゅうつ」と正しく発音できたにも関わらず、「びじゅうつ」「びゆつ」と発音と表記が揺れ、5:00 頃

に「びじゅつ」と読み返せるようになった。その後、美術は何度も出てきたが、発音に揺れはなくなった。「専門」は示した 3:00~5:00 のスクリプトにあるように、入力時はずっと「せんもん」という正しい発音も表記もすることができず、結局「専攻」という言葉を使わざるをえなかった。

3.5 4人のケースから読み取れる中国語母語話者の発音・表記の変化

中国語母語話者は手書きの場合は想起した漢語や漢字の字形が日本語と同じであれば、日本語での読み仮名がわからなくても、そのまま書けばよい。しかし、PC で入力する際には 2 つの課題が生じる。1 つは発音を正しく習得しておくこと、もう 1 つは正しく習得した発音を表記と一致させて入力することである。長音・促音・撥音の発音・表記ミスが少なかった参加者 B であっても、「女性」の例で 2 回目から正しい発音を思い出していることが発話思考法で確認できたが、表記は「じょうせい」のままであり、正しい表記で入力できるまで 4 回入力しなければならなかった。

参加者 C および D のように Rikaikun や参加者 E のようにグーグル翻訳を用いて、読み方のみ調べるというケースも目立った。これは上記のように漢語は日本語と共通するものが多く、中国語母語話者はそのまま使うことが可能だが、手書きと異なり入力の困難を伴うため、正しい表記での入力を助ける手段として読み仮名を知るために Rikaikun やグーグル翻訳を用いていたと思われる。

PC を用いて作文を書く際に入力に手間取るということをマイナス面から捉えるのではなく、手書きの場合は表面化しない発音や表記の誤りを知ることができると思うこともできるだろう。本研究は 1 回の作文過程を記録したが、1 回であっても学習者は PC を用いることで自分の発音と表記の誤りに気づくことができ、改善した例が多く見られた。少なくとも中国語母語話者にとっては、作文において PC を用いた場合、発音と表記の改善を期待できるのではなかろうか。

4. 本研究のまとめと課題

以上のように、中国語を母語とする中級日本語学習者の 1 回の作文過程において、発音と表記の自己モニタリングを行うことによって発音と表記が改善されるという事象が見られた。これは手書きでは期待することができないものである。特に中国語母語話者の場合は、漢語や漢字の字形が日本語と同じであれば、発音・読み（ひらがなでの表記）を正しく覚えていなくても漢字で書くということができていたために、手書きでは発音・表記の誤りに気付くことができなかったが、PC で入力することで気付くことができたと思われる。

本研究の事例においては、正しい表記による PC での入力ができずにその語彙の使用を回避する場合も見られたが、総合的には PC で入力することによって発音と表記の誤りに気づき、改善していくというプラス面を評価したい。

しかし、本研究は対象者が中国語を母語とする中級日本語学習者に限られている。手書きでは発音と表記を正しく入力できていなくても書けた漢語や漢字を用いた語彙に、PC 入力で困難を感じるのは中国語母語話者でも中級に限られる可能性がある。それは、上級であれば正しく発音と表記を身につけていることも予測されるからである。また、母語が

異なる学習者、特に母語で漢語や漢字を用いない学習者であれば漢語の発音・表記に関する課題は手書きでもPCでも変わらない可能性もある。多くの学習者がPCで作文を執筆するようになった現状では、どのように執筆しているのか、手書きとの違いがあるのか、様々な観点で分析していく必要があるだろう。

(石毛順子 いしげじゅんこ・国際教養大学・ishige@aiu.ac.jp)

注

1. 調査時点で主教材として『中級の日本語 改訂版』（三浦・マグローイン 2008）を用いるクラスに所属している学生を「中級」とした。
2. 日本語部分は調査者がプロトコルを作成し、中国語部分は台湾人日本語学習者にプロトコル作成と翻訳を依頼した。

付記

本研究は科学研究費若手研究(B)「日本語学習者のパソコンを用いた作文過程の探求」(研究課題番号 24720237)の助成を受けたものである。

引用文献

- 汪昕紅(2009)「日本語の漢字の読みの習得に関する一考察：中国語話者の学習者を対象に」『日本教育心理学会総会発表論文集』51, 578.
- 茅本百合子(2000)「日本語を学習する中国語母語話者の漢字の認知：上級者・超上級者の心内辞書における音韻情報処理」『教育心理学研究』48(3), 315-322.
- 高橋秀明(1993)「プロトコルからわかること、わからないこと」海保博之・原田悦子(編)『プロトコル分析入門』3章, 新曜社, 58-76.
- ヴィゴツキー, L.(著), 柴田義松(訳)(2001)『思考と言語』新読書社
- 三浦昭・マグローイン花岡直美(2008)『中級の日本語 改訂版』ジャパントイズ
- 盧颯・山下直子・林敏浩・山崎敏範(2004)「中国語母語話者のための日本語学習システム - 日中同漢字異義語データベース構築 - 」『電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学』104(342), 51-56.
- 盧颯・山下直子・富永浩之・林敏浩・山崎敏範(2005)「中国語母語話者のための日本語学習システム - 日本語学習教材の分析と整理 - 」『電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学』104(703), 79-84.